

「心に残る文化財子ども塾」活動の様子～浜田市立波佐小学校～

1. 活動の概要

令和7年6月26日（木）、浜田市の波佐小学校で「心に残る文化財子ども塾」を開催しました。「地域の歴史と玉作り体験」というテーマで体験学習をしました。

最初に、講師が学校の近くの遺跡について紹介しました。学校のすぐ南側にあるエクス
和紙の館・波佐まちづくりセンターには古墳時代前期（3世紀）と奈良時代（8世紀）の
集落の遺跡がありました（七渡瀬遺跡）。また、あたりの山間部には合計11か所のた
たらし跡もありました。子供塾では最初に「学校の周辺にある遺跡の数はどれくらい？」と、
質問します。波佐小学校では正解は30遺跡で、ここではこれより多い数を上げた児童が
多かったですが、たたらしの跡が多いことには驚きがあったようです。次に後半の体験につ
ながるよう、炊飯の歴史についても少し触れてみました。弥生時代には蓋をせずにゆでて
水分を飛ばす「湯とり法」（今だとパエリアとかがこの作り方）だったものが、古墳時代
から奈良平安時代にはいったん「蒸し法」（もち米などはこの作り方）にかわり、のちに
現在の「炊き干し法」（蓋をしたまま水分を飛ばす）に変わりました。なぜ古墳～平安時
代に「蒸し法」だったのかは大きな謎です（コメの品種に関係ありとされています）。
このあと、持参した弥生土器を手にとってもらいました。感想は「軽い」。意外に薄手で
す。今回は弥生時代の土器の復元品を使っての「炊き干し法」実験です。

さて、炊飯に入る前に、ピロティでの火起こしをおこないました。ここで火がつかないと、
ご飯が食べられなかった古代人の状況を追体験です。当日は晴れていてコンディショ
ンは最高。3人一組で、はずみ車をつけたいわゆる舞ギリを使って火をおこします。だ
いたい90秒くらい頑張ると煙が上がり、舞ギリの芯が摩擦で火種となってもぐさに落ち、
もぐさが燃えます。ここまでいくと火起こしは実質成功…なのですが、なぜかそこから新
聞紙などに燃え移りません。なんとか1組もぐさから新聞紙に火を移すことができました。
これで炊飯の準備はOK（なのですが、この作業に私が注力していたため、肝心の火起
こし中の写真がありません）

小学校で用意いただいた焚火台に土器をセットして、約300グラムの赤米を炊きま
す。結構薪は頻繁に追加しないとイケません。炊飯が進んでいる間に、どんぐりクッキー
を作ります。こちらはどんぐり粉（マテバシイ）にひき肉、山芋・ウズラの卵を混ぜて平
らに伸ばしたハンバーグ状にしたものです。ホットプレートで焼き、塩で味付けしまし
た。

これが終わるころには赤米も無事炊きあがり、校長先生も加わり、皆で分けてたべまし
た。以上、2時間半ばかりの体験授業でしたが、地元貴重な遺跡があることや、ご飯を調
理することなどからはじまり、身の回りのことについて自分で行う技術を持っていた古代人
の生き方を少し体験できたのではないかと思います。

2. 活動の様子



まずは座学 たたらの様子を学ぶ



弥生土器を触ってみよう…左側がお米を炊いた甕（用途的には釜）



赤米炊飯が始まりました。薪を準備。



古代食はおいしかったかな

3. 子ども塾を終えて

① 児童の皆さんから

- ・ご飯がすごく硬くて、昔は過酷だったとわかった。
- ・火起こしをしてみて、難しかったけど楽しかったです。
- ・波佐に鉄を作る遺跡が 11 もあったこと。
- ・勾玉づくり、金属鏡づくりも体験してみたい。

② 学校の先生から

- ・座学では身近な地域が題材で、児童に驚きがあってよかった。
- ・体験学習は子供たちの心に残り、知識も身につく。

③ 【埋文センターから】

- ・今回は、埋セン職員もあまり慣れていない古代食体験、薪の調達や焚火台などご協力いただき無事成功？できました。
- ・火起こし体験はもぐさに火種が落ちれば成功なのですが、そこからなぜか紙への着火がうまくいかず、この部分についても練習や工夫を重ねていきたいと思います。
- ・火起こしから炊飯まで一連の体験をすることで、現代社会ではどうしても機械化や仕事の分担（分業）によって失われてしまっている、自分で最初から最後までやり遂げることの重要性を理解していただけたのではないかと思います。